
蜃気楼

ポイント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蜃気楼

【Nコード】

N5913S

【作者名】

ポイント

【あらすじ】

貴方は何か忘れていませんか？

時間に追われる忙しい生活の中でふと後ろを振り返るのも

そんなに悪くないかもしれません

#1

「守りたいものが、ある」

それを、守り抜く術を 貴方は知っているの？

「愛するものが、ある」

それを、見極める眼を 貴方は持っているの？

「私は、幸せでありたい」

それを、保つことが 貴方にできるの？

最後にひとつだけ……

貴方は、先を見通せるのか？

そんな声が聞こえた気がして、目が覚めた。
昨日の飲み会がきてるのか、頭が回ってない。
もう休んでしまいたいところなんだけど大事な会議があるから無理。

ウダウダしてる間に

「う……ぎゃあ！！」

いつでもタイムは迫っているのだ。

たまに自分でも思う。

なんで私は、こんなに時間に追われているのだろう、と。

考えてみれば、ここ数年は三百六十五日ずっと時間に追われている気がする。

仕事の日は通勤時間や会議の時間、昼休みに、終電の心配。

休みでも、待ち合わせの時間や映画の時間、合コンの時間。

田舎から出てきたばかりのときは、窮屈な都会の生活にテンヤワ
ンヤだったが、

今ではもう慣れたものだ。

だから時間に追われての生活に不満はあっても違和感はなかった。
だってこれが普通なんだし、みんなこうして生きている。

これが現代の当たり前前の生活リズムなんだと。

—私が『アレ』と会ったのは、そんな日常の中でだった

もうすっかり使いなれた通勤のぎゅうぎゅう地下鉄を降り、アスファルトの照り返しに悩まされながら会社へと急ぐ途中、

「あの…すみません」

小さな声が聞こえた。

声からして女性だったが、最近この辺でセールスが多いので無視した。

他人にかかわると、ろくなことがない。

しかし、

「あの…そこのお姉さん」

声はしつこかった。

その声を見無視して横をすり抜けようとしたが——できなかった。

「あ、あのっ！」

なにやら必死に話かけてくるソレは、逆光でよくわからなかったが、まだ学生のようにだった。

冬ならわかるけど夏休みでもないのに、こんな時間にビジネス街に学生？

少し不振に思ったが、もしかしたらサボりなのかと思いなおしてみた。

確かにそれならいてもおかしくはない。

私は、ため息をひとつ吐くと

「何のよう？急いでるんだけど？」

自分でも大人気ないと思いつつ、明らかにめんどくさそうに言う。

「あ、その…すみません。お時間はとらないので…」

道でも聞きたいのだろうか？

少し言いよどんでいるように見える人影は、意を決したように背後から何かを取り出し

「これ…受け取ってください！」

何かを押し付けるように渡すと走り去ってしまった。

「ちよ……なんなのよ……」
追いかけてようとしたが間に合わず黒い箱を握ったまま立ち尽くすのだった。

『この手紙を読んでいる貴女へ』

箱の中に入っていたメモは、こんな文章から始まっていた。

『貴女が忘れてきたものは何ですか？

貴女が本当に欲しかったものは何ですか？』

小さく端を千切ったルーズリーフにはそんな短い文章が書いてあった。

それと同封されていたのがウォークマン型MDプレーヤー

今では 아이폰 なんかが主流で大型家電ショップでもそうそう見かけないタイプのもので今のようにはパソコンからダウンロードして曲を入れるのではなくCDをわざわざ介して曲を入れたりするものである。

じっくり見てみると細かく傷が無数に入っていて結構使い込んでいるようだった。しかし

「どっかで見たような……？」

よくわからないデジャウを感じる。

中を空けてみるとしっかりディスクも入っていた。ディスクも本体ほどではないが傷があった。

よくわからない少女と不思議なMDプレーヤー

わからないことだらけだが、とりあえず

「呪われるわけじゃないしね」

付属のイヤホンをつけて再生ボタンを押してみた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5913s/>

蜃気楼

2011年10月9日20時00分発行